



サガハイマツカード・イメージ

■サガハイマツ開設資金にご協力いただきました皆様へ

平成23年12月現在、事業所・団体373件、個人453名の方に、当財団へのご寄附の振込又はお申込みをしていただいております。

当財団では、この度、開設資金にご協力いただきました皆様に対し、感謝の意を込めて、サガハイマツカードを発行することにいたしました。本カードをお配りした方は、提携先の宿泊施設、店舗等で割引などの特典を受けることができます。詳しくは財団HPをご覧ください。今後も提携先の拡充に努めて参ります。

■チャレンジ大募集中！あなたのチャレンジで、サガハイマツを応援しよう！

誰もが気軽に寄附を集める人になれる「JustGiving」というサイトがあるのをご存じですか？当財団も「心と体にやさしい重粒子線がん治療施設を九州・佐賀へ。」というチャレンジを登録しています。応援してくれる皆さんは、下記URLにアクセスし、『このチャレンジに寄附する』をクリックしてください！

<http://justgiving.jp/c/7100>

■個人の方の寄附について所得税の税額控除が選択できるようになりました。

個人の方が平成23年1月1日以降に当財団に対して支出された寄附金については、従来の所得控除よりも税の控除額が大きい「税額控除」が新たに適用できることとなり、税制上の優遇措置が拡大されました。税額控除を受けるには当財団が発行した領収書と税額控除に係る証明書の写しを添付して確定申告を行う必要があります。また、「ふるさと納税」により佐賀県を経由して当財団に寄附することもできます。詳しくは財団HPをご覧ください。

<http://www.saga-himat.jp/taxbreak.php>

サガハイマツ通信

VOL.2 (平成24年 2月号)



(平成 24年 1月 11日撮影)

サガハイマツは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です。

Q. 現在、重粒子線治療はどこで受けることができますか？

A. 国内で稼働している施設は千葉県、兵庫県、群馬県の3か所しかありません。このうち最も治療実績の多い千葉県にある放医研では、平成6年の治療開始以来、本年8月までに約6,000人以上のがん患者さんを治療しています。放医研に続き平成14年より兵庫県立粒子線医療センター(陽子線と併用)が、また平成22年3月より群馬大学重粒子線医学研究センターでも治療が開始されました。サガハイマツは、日本で4か所目、九州では初の重粒子線がん治療施設になります。

●お問い合わせ

発行元：公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)落合
電話：0942-81-1897 ファックス：0942-81-1905
住所：〒841-0033 佐賀県鳥栖市本通町1丁目802番地3
HPアドレス：<http://www.saga-himat.jp/>

平成24年2月発行

スタッフ紹介

公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団

副センター長 塩山 善之

平成23年10月1日、九州大学大学院医学研究院重粒子線がん治療学講座教授の塩山善之博士(46)が、サガハイマツの副センター長に就任しました。塩山副センター長は、熊本県生まれ、九州大学医学部卒業後、九州大学放射線科に入局、放射線治療全般、特に、高精度放射線治療、粒子線治療などでがん治療に携わってきました。



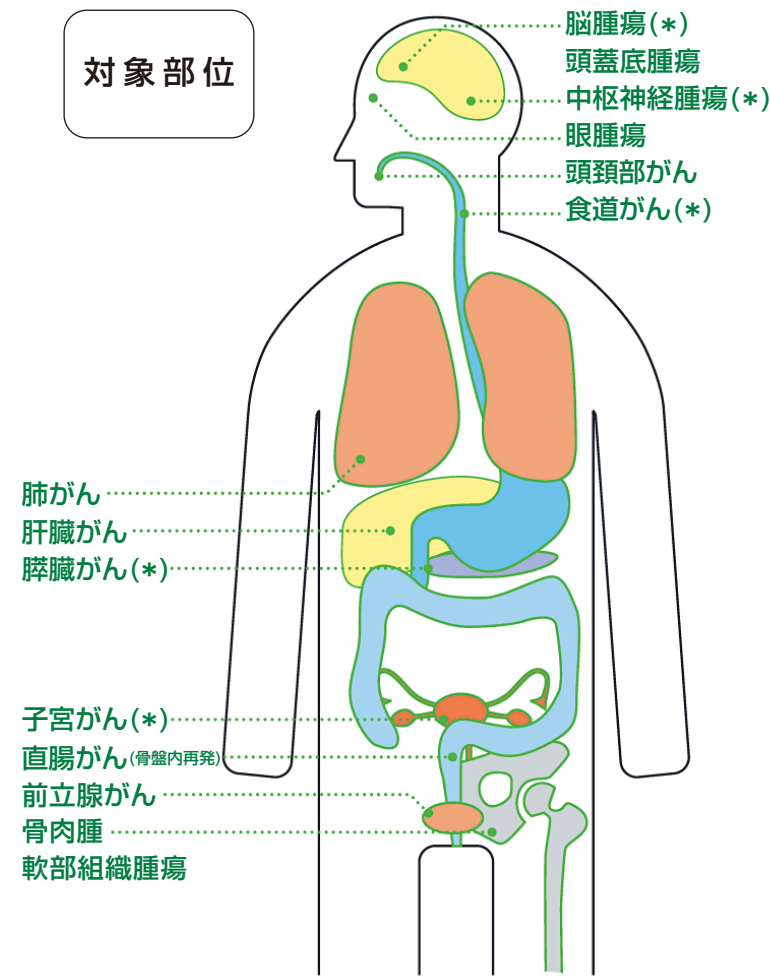
九州大学も「重粒子線がん治療学講座」を開設してサポート

九州大学では平成22年7月に寄附講座「重粒子線がん治療学講座」を開設、重粒子線がん治療の充実・発展のため、この治療に従事する放射線腫瘍医の人材育成に取り組むとともに、重粒子線を利用した先進的がん治療に関する研究を行っています。

こうした取組を通じて九州大学が九州地区の重粒子線がん治療に関する教育・研究の拠点となり、またサガハイマツにおける医療スタッフの確保および着実な運営に向けた一助となれば幸いです。

治療の特徴

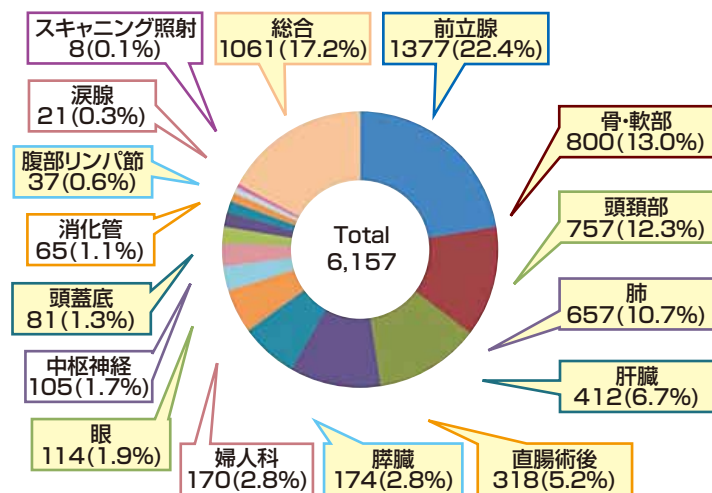
治療の対象となるがん



(*)臨床試験中の対象部位
(独)放射線医学総合研究所ホームページより改変

治療の部位別割合

放医研における重粒子線治療の登録患者数
平成6年6月～平成23年8月



(独)放射線医学総合研究所ホームページより改変

治療の対象となるがん

重粒子線がん治療は、がん細胞だけをピンポイントでたたく優れた力や、がん細胞に与えるダメージの強さで、今まで治療が難しかったがんにも治療の可能性を広げます。また、体を切らずにすむことや副作用が少ないことから、治療後の患者さんの暮らしへの影響が少ないことも大きな魅力です。これは、がん医療にとって大きな進歩といえます。

重粒子線がん治療の対象となるのは、ひとつの部位に留まっている固形のがんです(左図参照)。なかでも肺や前立腺のがん罹患者数は今後も増加が予想されており、この治療法は大いに期待できます。

一方、白血病のような血液のがん、広範な転移のあるがん、胃がん、大腸がんなど不規則に動く臓器のがん、乳がんのように従来の治療法で治療成績のよいがんなどは、現在、治療の対象とはなっていません。

左の円グラフは、平成6年6月から平成23年8月までの千葉県の放射線医学総合研究所(放医研)における重粒子線治療の実施状況を示したものです。前立腺がんが22.4%と最も多く、骨・軟部腫瘍、頭頸部がん、肺がん、肝臓がんと続きます。

治療成績は、例えば前立腺がんについては、5年粗生存率が91%、原病生存率(前立腺がんで死亡しない確率)は97%を超える一方で、副作用は他の放射線療法よりも少ないというたいへん優れた治療法として確立されています。

トピック

* 県民公開講座「心と体にやさしい重粒子線がん治療」を開催しました。

重粒子線がん治療を紹介する県民公開講座を、平成23年10月22日(土)、佐賀市文化会館で開催し、1,100名の方が来場されました。その中から、重粒子線がん治療の体験者である堤 静香さん(東京都)の講演要旨を紹介します。

平成16年、私は頭頸部の骨肉腫、「顔の骨にできたがん」と宣告されました。100万人に1人といわれ、5年生存率は30%弱。当時の治療法では、抗がん剤も放射線も効果がなく、手術しか方法はありませんでした。しかし手術すれば「顔が半分なくなる」といわれ、恐ろしい現実に奈落の底に突き落とされたような恐怖感しかありませんでした。

手術のため入院する4日前、夫が新聞記事を見つけてきました。そこには「重粒子線、がんの深部にピンポイント」という見出し。これまでの放射線と違い、骨のがんにも効果があるという記事でした。私は直感的なものを感じ、担当の先生も快く紹介状を書いて下さいました。

本来なら手術するその日、私は放医研の門をたたきました。そのころの重粒子線治療はまだ黎明期。16回に分けての照射、入院は2か月に及びました。その後いろいろなことが起きましたが、頭頸部の骨肉腫で、顔がある状態での生存は、私が最長記録だそうです。「最後まであきらめない、勇気を持って」。これが私のメッセージです。



治療体験について語っていただいた堤 静香さん

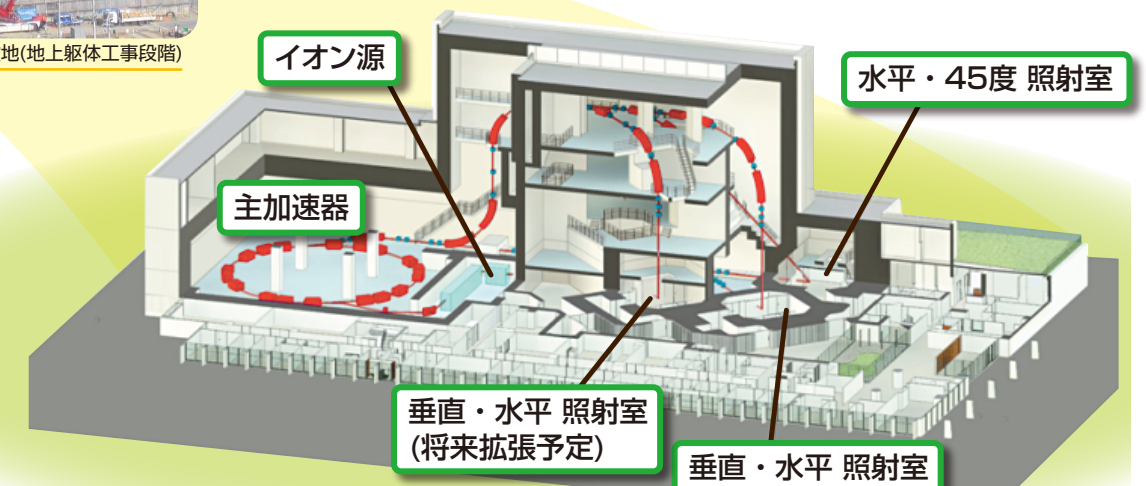
サガハイマツ建設状況

平成23年2月に着工した建屋建設は、12月に治療装置を据え付ける部分のコンクリート打設が終了しました。打設終了後の24年1月より装置の搬入据付が開始されます。建屋は10月に完成し、治療装置のビーム試験等を経て平成25年春には開設の予定です。



サガハイマツの治療装置配置イメージ

「イオン源」で炭素イオンを作り、これを加速器で光の速さの70%まで加速し、必要なエネルギーまで高められた重粒子線を照射室(治療室)へと送り、患者さんに照射します。



※大成建設(株)設計本部作成